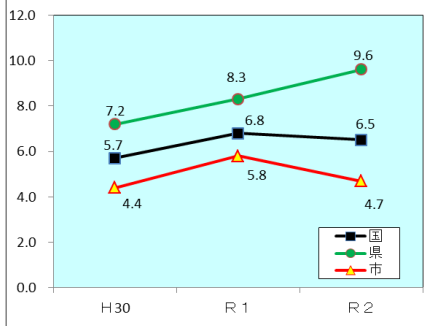


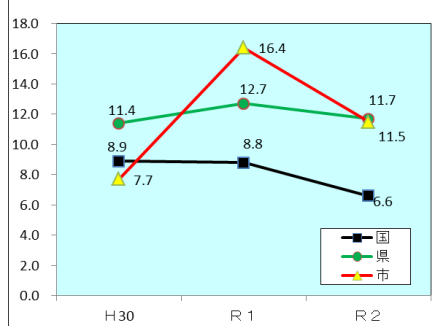
令和2年度「東広島市立の小中学校における生徒指導上の諸課題」の現状について

1 「暴力行為」の発生件数について

【小学校/1,000人あたりの発生件数】



【中学校/1,000人あたりの発生件数】



【本市の暴力行為発生件数】

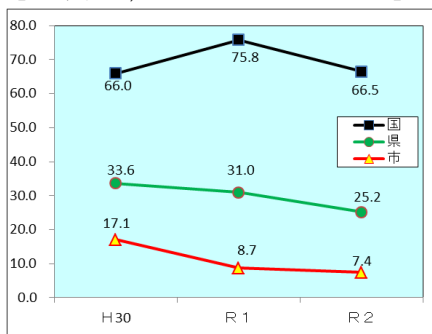
	小学校	中学校
H30	50	36
R1	66	84
R2	53 (31)	55 (32)
R3	(40)	(24)

※ () 内は10月末の数値

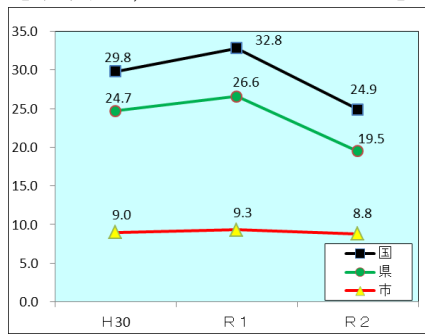
- 令和2年度の本市の児童生徒1,000人あたりの暴力行為の発生件数は、小学校は国及び県の数値をいずれも下回っているが、中学校は国の数値を上回っている。
- 令和2年度の本市の児童生徒1,000人あたりの暴力行為の発生件数は、前年度と比較すると小中学校ともに減少している。

2 「いじめ」の認知件数について

【小学校/1,000人あたりの認知件数】



【中学校/1,000人あたりの認知件数】



【本市のいじめの認知件数】

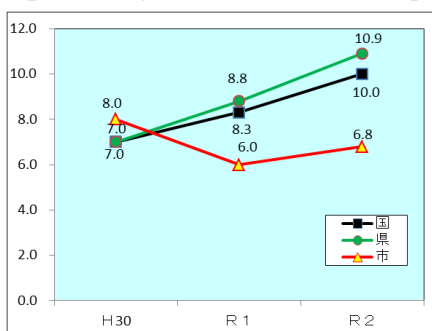
	小学校	中学校
H30	193	42
R1	99	43
R2	84 (39)	42 (22)
R3	(46)	(29)

※ () 内は10月末の数値

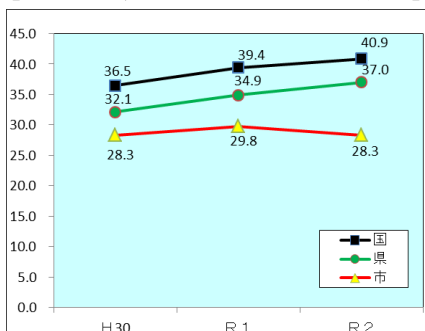
- 令和2年度の本市の児童生徒1,000人あたりのいじめの認知件数は、小中学校ともに国及び県の数値をいずれも下回っている。
- 令和2年度の本市の児童生徒1,000人あたりのいじめの認知件数は、全国と比較すると小学校で0.11倍、中学校で0.35倍である。

3 「不登校」の児童生徒数について

【小学校/1,000人あたりの不登校児童数】



【中学校/1,000人あたりの不登校生徒数】



【本市の不登校児童生徒数】

	小学校	中学校
H30	90	132
R1	69	138
R2	77 (40)	135 (102)
R3	(57)	(134)

※ () 内は10月末の数値

- 令和2年度の本市の児童生徒1,000人あたりの不登校の児童生徒数は、小中学校ともに国及び県の数値をいずれも下回っている。
- 国及び県の不登校児童生徒数は、小中学校ともに増加しているが、本市の不登校児童生徒数は、小学校は増加し、中学校はほぼ同数である。